

A portrait of a man with glasses and a blue t-shirt, smiling, standing in front of a lush green citrus grove. The background is filled with green leaves and some ripe orange fruit.

熊本県水俣市

山本 章太

年齢 : 34歳

営農類型 : 露地果樹 (柑橘)

作付面積 : 露地不知火 (100a)

無加温不知火 (40a)

EC12 (ゆうばれ) (10a)

経営構成 : ・本人のみ

就農のきっかけ

結婚し、家族との時間を大切にしたいと考えようになり、転勤が多い環境だった前職からの転職先を探していました。様々な業種を検討する中で、熊本県就農セミナーの記事をインターネットで見かけ、芦北地方農業振興協議会の取り組みが興味深く、就農を考えるきっかけとなりました。研修は1年6か月間受講し、地域の農業者から直接指導いただく中で、師匠と呼べる先輩農家との関係性を築けるなど、技術面はもちろん、就農後も充実したサポートを受けることができています。

現在の経営状況、課題について

就農時は約70aの圃場でしたが、就農5年目の現在さは、約150aまで拡大することができました。昨年は干ばつの影響で収量が落ち込んだものの、経営は安定してきています。

出荷先はJAの他、ふるさと納税、インターネット、道の駅など販路も増えてきましたが、販売のための営業ができる時期と農作業の繁忙期が重なるため、営業が思うようにできていません。今後、さらに経営拡大を目指す中で、柑橘栽培は繁忙期と閑散期があるため、通年雇用が困難で、雇用労働力の確保が課題と感じています。

就農時に活用した事業

就農準備資金と経営開始資金は、ガソリン代や生活費等に活用しています。特に研修時は、農業収入がない中で、就農準備資金だけで生活するのは厳しく、アルバイトもしていました。ただ、この資金があったことは、就農の一つのきっかけとなりました。資金の額は十分ではないかもしれませんが、今後継続して営農するため、この資金に甘えすぎても良くないと思っています。

その他、青年等就農資金（融資）も活用しながら、貯蔵庫の購入など設備導入を行いました。

地域のサポート等

JAの果樹部会や水俣芦北で新規就農者や農業研修生の任意組織「せしかう会」、熊本県4Hクラブなどに加入しながら農家同士の交流を深めるとともに、地域の消防団にも加入して積極的に地域との関りを持っています。

新規就農者にむけて

農業は転勤がなく腰を据えて仕事ができ、ワークライフバランスの取れた職業だと思っています。もちろんキツイと感じる作業もありますが、頑張った分だけ収入に反映します。

農業をしていく中で、自分の師匠と呼べる人への出会いや、新規就農者、若手農業者との繋がりは貴重です。そういった方々を見つけ、悩みや課題を共有し、周りのサポートを受けながら農業に取り組んでください。

今後の目標と取り組みについて

現在34歳ですが、あと10年後の45歳で経営のピークを持ってこられるように園地の確保や改植、未収益期の短期的な収入確保の方法を検討しています。そのための農業経営について更に学びたいと思っています。